

広報紙紹介

いきいき人生「今日を楽しく、明日に夢を」 会報はあゆみの記録紙、組織の潤滑油

— 瓦版 ことぶき —

岩手県奥州市 水沢南大鐘寿会



今回は岩手県奥州市で活動する、水沢南大鐘寿会の会報をご紹介します。水沢南大鐘寿会の事務局長を務められ、会報の編集者でもある村上徳也さんにお話を伺いしてました。

「いつも会報『瓦版 ことぶき』を送っていただきありがとうございます。はじめに水沢南大鐘寿会について教えてください。

村上さん 「水沢南大鐘寿会」は、昭和48年度の創立から町内会（現・水沢南大鐘町内会）約400世帯、900人）とともに市町村

合併や組織クラブの分町・分離等の変遷を経て、平成16年4月「新生・水沢南大鐘寿会」高橋安三郎会長」として再発足し、今日にいたりました。

会員は60代〜90代まで61人（男28・女33）。町内を6ブロック制（各理事2）とし、隔月に理事会を開催しながら「今日を楽しく、明日に夢を」をモットーに活動しています。（会長・副会長・監事は全体から選任し事務局・会計は会長指名）

事業（活動）は、隔月開催の理事会で自由放談の中で決定。長年にわたる豊かな経験と知識、多岐にわたる趣味などからいろんなアイデアが生まれます。事業ごとに世話人会を

設けて具体的に企画し全員が協力。決まったこと、また事業の実施内容を会報「ことぶき」紙上で紹介します。仲間・支え合いを大事に「いきいき人生を」目標に事業を取り組んでいます。

会報は、組織の潤滑油でもあると同時に貴重な記録紙でもあります。現在はずいぶん過去となり、そして忘れ去られます。あゆみの歴

史ともなる会報「ことぶき」のNoを重ねながら継続発行を大切にしています。

——会報は「瓦版」と銘打ち毎月発行され、今までの発行は165号（令和3年11月）にもなりません。どのような思いを込めて会報をはじめたのかお聞かせください。

村上さん 高齢化が進む現在、会員は70代〜80代が多く、健康面や孤独感（一人暮らし）等に個々の課題を抱えています。各種行事や楽しい集いにも参加が困難の声が寄せられ、都合で参加できない方や入院されている方等にもその内容やエピソードなどを紹介し、情報の共有を大事にしています。会報を通じて仲間の絆を強め、また組織の潤滑油として、さらには他地区や関係団体との交流紙として発行しています。



震災復興支援仮設住宅慰問公演



春の花苗植栽作業

——紙面では、会の活動紹介はもちろんのこと、地域の生活情報や地区の子どもたちの様子など、多くの話題が盛り込まれています。会報を作成するうえで工夫している点などは？

村上さん 限られた紙面（A4判）なので、記事は簡潔、趣意は見出しで強調して紹介。紙面にはできるだけ会員の名前や動き、表彰、町内会や子供会、関係団体など身近な話題など読みやすい紙面づくりを考えています。

町内や地域の楽しい話題、ニュースは、ことぶき通信所（クリーニング店や理・美容院、食堂等が協力）に情報提供をお願いし、また、楽しい「シルバー川柳」や「健康・福祉コーナー」などを設けて、笑顔が広がり待たれる会報を心がけています。

——会報では、コロナ禍で活動に大きな影響を受けながらも、感染予防を図った相談活動や暮らし支援プレゼント活動など、新しく工夫して活動されている様子が伺えます。水沢南大鐘寿会では、これからのような展開を目指していますか？

村上さん 高齢社会を迎

えています。長年培った貴重な経験や趣味、豊富な知識を活かして地域社会参加が大切な時代です。人口減少が進む中、公的年金支給時期の引き上げ、雇用の法的措置等で70歳を超えても仕事に就いている人が多い就労形態になっております。60代会員加入の難しい課題等もありますが、事業のマンネリ化に知恵を絞り、サロンやふるさと心を醸成する子どもたちとの世代間交流、趣味を生かす「ことぶき楽園」、親睦を深める野外散策や一泊旅行など、身近に気軽に参加できる事業を計画しています。

孤独になりがちな一人暮らし高齢者には声をかけ、誘い合いを大事にしています。地震発生時やコロナ禍で事業や集いの中止には、役員が手分けして生活用品を届けながら声かけ訪問・困りごと相談などを実施していますが、今後も支え合い助け合いを大事に事業を展開して参ります。

震災10年となる「3・11復興支援」には「演芸みなみ寿座」公演や「ふるさと交流賛歌」等、心の復興支援の灯を消すことなく、また、福祉施設慰問等のボランティア出前公演継続も考えています。「費用は自弁、報酬は感動、心の豊かさ完全支給」を活動のモットーに、高齢者の元氣、笑顔が広がる活動を今後も続けていきたいと思えます。